

発見! あのだ町&あの駅

散策マップ

京阪電車・嵐電(京福電車)・叡電 全125駅を巡ります

今回は京阪電車の
観月橋 Kangetsukyo かんげつきょう
桃山南口 Momoyama-minamiguchi ももやまみなみぐち

今回訪れたのは、かつて豊臣秀吉が築いた伏見城や向島城があった町。今も秀吉ゆかりの古いお寺や歴史を伝える町名が残り、歴史散歩にぴったりのエリアです。伏見城本丸跡にある「御陵さん」からの眺望や、悠々と流れる川沿いの景色に、心もスッキリ晴れますよ!
 【文とイラスト にしむらさちこ】



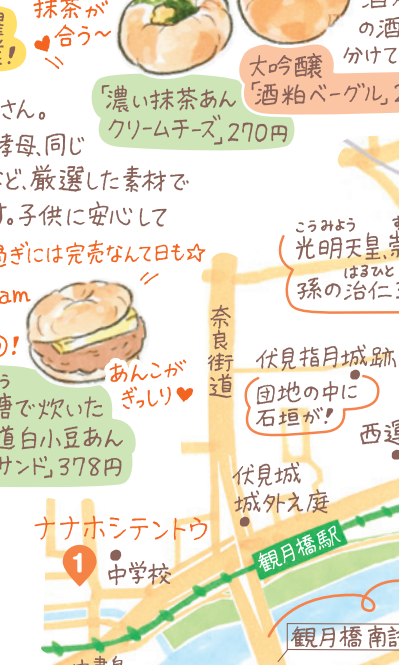
伏見の名水と天然酵母で丁寧につくられた絶品ベーグル

1 ナナホシテントウ

静かな町角にたたずむ、小さなベーグル屋さん。北海道産小麦「はるゆたか」や白神こだま酵母、同じ伏見区の藤森神社から湧き出るとご神水など、厳選した素材で作られた約8種類のベーグルがそろいます。子供に安心して食べさせられるとママたちから好評! 昼過ぎには完売なんて日も☆



程良い弾力で食べやすい!
 ツヤツヤ 生地はほんのり甘くて酒粕の香りがフワッ
 酒処・伏見の「京姫酒造」の酒粕に店主がほれこみ、分けてもらっているそう!



食べてほっこり! 昔ながらのお煎餅&ポン菓子

2 観月あられ 向島直売店

1951(昭和26)年創業。観月橋のもとで変わらぬ味を守る米菓子メーカー。小倉百人一首の柄箱入りあられのほか、直売店ならではのお徳用割れ煎餅が人気! 両手いっぱい買って行く人も多いそう!



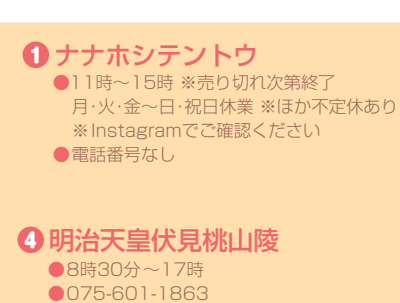
かつては「豊後橋」と呼ばれ、明治時代の再建の際に月見の宴にちなんで「観月橋」となったそう



3代続く地元農家が手掛ける、旬野菜と米粉スイーツをお土産に!

3 米とやさいの食工房

自然の力を生かした鉄ミネラル農法で、お米と年間2~30種類の野菜を育てる「宮本ファーム」の魅力が詰まったアンテナショップ。自家栽培の米粉を使った体に優しいグルテンフリー商品がそろい、ケーキやクッキーも手作り!
 看板スイーツ
 「米粉シフォン ケーキ・豆乳」302円
 「玄米粉マフィン」356円
 この日は自家製イチゴジャム入り



かつては「豊後橋」と呼ばれ、明治時代の再建の際に月見の宴にちなんで「観月橋」となったそう



明治天皇 伏見桃山陵



「御陵さん」と親しまれる、明治天皇が眠る御陵

4 明治天皇伏見桃山陵

美しいてんのうふしみのももやまのみささぎ
 豊かな木々と静寂に包まれた参道の先に、広々とした明治天皇の御陵があります。町を見渡す丘の上にあり、素晴らしい眺望でも知られています。



風味も濃度も自然のままの貴重な京都産ハチミツ

5 京都ヒグチ養蜂園

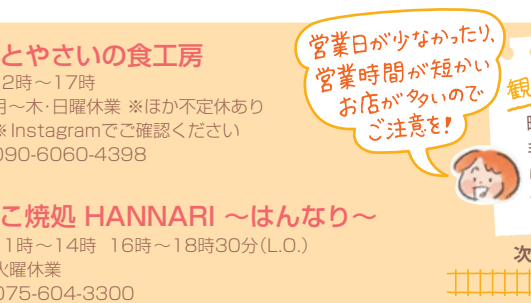
京都の様々な野山に設置した、自園のミツバチの巣箱から採取した天然のハチミツのみを瓶詰めに、花の味や香りも楽しめる自慢のハチミツ約9種類が店頭で並びます。
 1番人気! 日常使いに
 スッキリとした甘さの「百花」160g・950円
 ミツバチがいろいろな花から集めた自然ブレンド!
 「うわみずぐら」160g・1,100円



銅板で焼く、フワトロ~な創作たこ焼き

6 たこ焼処 HANNARI ~はんなり~

2種類のカツオ節を使った、だしの旨味たっぷりなたこ焼きが評判。注文を受けてから焼いてくれて、アツアツトロリな食感がたまりません! 季節限定など10種類以上そろったトッピングメニューも魅力的よ
 生の明太子を使った「明太マヨ」6個・580円
 テイクアウトは電話注文しておくのが◎!
 大きめなのでお箸で!



ミツバチ優先のため、お店の営業は週末がメイン。詳しくはSNSを!



- 1 ナナホシテントウ**
 ●11時~15時 ※売り切れ次第終了
 月・火・金~日・祝日休業 ※ほか不定休あり
 ※Instagramでご確認ください
 ●電話番号なし
- 2 観月あられ 向島直売店**
 ●10時~16時
 土・日・祝日休業 ※ほか不定休あり
 ●080-8533-0875
- 3 米とやさいの食工房**
 ●12時~17時
 月~木・日曜休業 ※ほか不定休あり
 ※Instagramでご確認ください
 ●090-6060-4398
- 4 明治天皇伏見桃山陵**
 ●8時30分~17時
 ●075-601-1863
- 5 京都ヒグチ養蜂園**
 ●10時~17時
 営業は週2~3日
 ※電話・X(旧Twitter)でご確認ください
 ●075-611-0383
- 6 たこ焼処 HANNARI ~はんなり~**
 ●11時~14時 16時~18時30分(L.O.)
 火曜休業
 ●075-604-3300

今回は京阪電車の
六太 Anoo あのお
松ノ馬場 Matsunobamba まつのはんば